

## 平成26年度第2回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

### 【開催】

開催日時 平成26年8月23日（土）14:00～16:00

開催場所 緑保健福祉センター2階 大会議室

出席者 委員21名中 19名出席（内、1名代理）、ガイドヘルパー1名  
事務局7名（緑保健福祉センター長、高齢障害支援課3人、社協緑区事務所3名  
千葉市地域福祉課2名

### 【次第】

- 1 開会
- 2 議題
  - (1) 第3期 緑区地域福祉計画について
  - (2) 平成26年度緑区地域福祉計画の推進について
- 3 その他
- 4 閉会

### 【議事及び質疑要旨】

#### 議題（1）第3期緑区地域福祉計画について

事務局より、第3期緑区地域福祉計画について説明した。

主な発言内容は以下のとおり。

（事務局） 第1回緑区推進協議会において提示させていただいた骨子（案）・素案（案）について、前回説明したとおり、基本的には第1期計画、第2期計画を継承し、取組内容等がイメージしやすいように第3期計画の見直しを図った。いただいた意見については、内容を確認させていただき、7月31日（木）に、推進協事務局・委員長・副委員長による検討会を開催した。その結果、項目の増減は変更ないが、「具体的な取組み」部分の文書表現を一部加除修正した。その後、委員に緑区〇〇プランの変更点・緑区〇〇プラン（平成27年度～29年度）の2点を事前に郵送した。内容については、すでにご覧いただいていると思う。計画最終案を説明したい。はじめに、緑区〇〇プラン骨子（案）については、変更なし。続いて、骨子（案）、素案（案）全体に記載している障害の「害」について、「ひらがな」に変更してはとの意見を踏まえ、障害の「害」を「ひらがな」修正。続いて、緑区〇〇プラン（平成27年度～29年度）素案（案）の各施策の方向性の一部の具体的な取組み項目について意見の中から6項目について加除修正した。基本方針1の「7 地域の行事に参加しよう」部分の具体的な取組み表現を、対象者を区分せずに誰

もが交流できる行事を作れるようにと「地域住民が一体となり」を加筆。同方針1の「8 障がい者（児）との交流会の開設」部分の具体的な取り組み表現を、心のバリアフリーを進めるため「障がい者（児）への理解を深め」を加筆。続いて、基本方針4の「37 移送サービス事業の検討」部分の具体的な取り組み表現を、移送サービスのシステム作りとして「既存の社会資源を利用する等、」を加筆。同方針4の「38 見守り活動の推進」部分の○二つ目の具体的な取り組み表現を、無理なく行う見守り活動として「挨拶運動など」を加筆。同方針4の「40 活動団体同士の連携」部分の具体的な取り組み表現を、まだ、区全域に広がった仕組みではないため「地域運営委員会」を削除し、「地域ケア会議等」を変更。つぎに、基本方針5の「47 地域住民の要望の提起」部分の具体的な取り組み表現の「市への協力要望」を「支援していきます」に修正。それ以外の変更はない。地区部会エリア（4地区部会）における重点取り組み項目の選定を9月末までに決定することとなっており本日承認をいただきたい。

- (松戸副委員長) 何か質問はあるか。
- (廣田委員) 地域ケア会議というのとはどのようなもので現在立ち上がっているか。
- (事務局) あんしんケアセンターと行政と地域関係者で開催している。そこにプラスして行政主導で個別事例の話し合いを行っているケア会議もある。
- (鴨委員) 私は精神障がい者の偏見をなくす内容を明確にと意見した。偏見という言葉を取り入れなかったのはどのような考えか。
- (事務局) 偏見という言葉より心のバリアフリーを進めるという言葉で表現した。
- (鴨委員) 偏見という言葉は社会で認められている言葉だがなぜ使わなかったのか。
- (事務局) 精神障がい者を含めた障がい者全般を意味するように考えており、偏見という言葉は使わなかった。
- (松戸副委員長) 委員長副委員長も含めて話し合っこのような表現にした。他に意見はあるか。
- (岡本委員長) 3つの障がい者をまとめて述べたいと考えた。偏見という言葉を使わなくても障がい者に対しての偏見はなくなってきたと考えている。心のバリアフリーとして心のつながりを大事にしたいと考えた。
- (鴨委員) 偏見はなくなってきたと話しているが、偏見はなくなっていないと考えている。それをなくすために活動しようとしている。千家連や全国の家族会ではそのような認識で活動している。認識違いがあると思う。また違う機会に事例を述べたい。
- (廣田委員) 障がいをもっている立場で話をさせてもらう。国際障がい者年から全盲者や車いすの方への偏見は確かに薄くなってきていると思う。内部障がい者で目に見えにくい方に対しては厳しい部分はある。それをなくすための心のバリアフリーとなっているがそのような考えは考慮してほしかった。
- (事務局) 障がい者への理解を深めるということは考慮している。

- (中村和委員) 障がい者に対しての注記を入れた方が障がいを理解できると思う。障がいには身体や知的、精神など種類がある。
- (事務局) 障がい者という言葉が出てくる所に注記を入れ込むことはできる。
- (中村和委員) 是非お願いしたい。
- (松戸副委員長) これで採決を取りたいと思う。挙手をお願いしたい。
- (松戸副委員長) ほぼ全員から挙手があったので決定としたい。

## 議題(2) 平成26年度緑区地域福祉計画の推進について

松戸副委員長の進行により各委員から活動報告があった。

### ①報告事項

主な発言内容は以下のとおり。

- (松戸副委員長) 資料5に沿って進めたい。おゆみ野地区から順番に報告してもらいたい。
- (中村委員) おゆみ野地区部会は2点ある。1つはふれあい散歩の充実している。年3回実施する。今年度はあと2回行う。来年度は5回程度に増やしていきたい。家からなかなか出られない車いすのような方を誘っている。あんしんケアセンターの協力も得ている。連協自治会にも回覧を回して周知していく。2つ目は障がい者福祉委員会の活動である。おゆみ野には障がい児がたくさん住んでいる。7月末に100名以上の参加者でそうめん流しをした。お楽しみ会と称している。箸を使えなかった障がい児がそうめんを掴んで母親が喜んでいたのが印象的だった。12月にもお楽しみ会を企画している。昨年度は明德高校のチアガールにも参加してもらった。障がい児と一緒に楽しめるものを考えている。年2回実施している。またおしゃべり会と称して障がい児をもつ親の茶話会を年2~3回実施している。親の悩み事を話し合ってもらっている。
- (松戸副委員長) おゆみ野は8月2日に第27回の夏祭りを開催し6,000人程度の参加があった。福知山の火災事故があったことで、火を使う出店に対しての配慮をきっちり行った。また8月31日に避難所運営委員会の訓練を行う。運営マニュアルに基づいて運営することを考えている。見守り活動に対して各地区で活発になってきたのでおゆみ野も考えていきたい。
- (本田委員) 椎名地区部会の報告をしたい。椎名をまとめて自分が報告したい。子ども達の交流活動や古市場の見守りについて発表する。1つ目の子ども達の支援として食育事業をしている。5月13日に田植えを行い、9月8日に稲刈りを行う。その米を12月2日に太巻き寿司を作り、地域住民と子ども達の交流を深めている。2つ目として古市場のお元気確認委員会を行っている。昨年12月からスタートしている。16名の見守り希望者と申し出がないが見守りが必要な人を合わせて20名以上見守っている。次に連協自治会としての活動を発表したい。古市場では2か月に1回、ボランティアの苦労話とか解決策を話し合っている。コミュニケーションを深めることを重点にしている。
- (中村和委員) すこやかネットの福祉有償運送として目標を発表したい。事業の拡大充実として去年の反省を踏まえて考えた。会員数の増加や利用日のばらつ

きをなくすことを考えているがうまくいかなかった。2つ目として有償運送のマニュアル化である。8年経って習熟していきているが、メンバーが少人数であり士気で1団体しかない。他地区からの運送希望をいただいているが断っている。立ち上げ編と役所手続き編と運営編の3つに分けてマニュアル化したい。他地区からの要望に応じていきたい。

(峰村委員) 土気地区部会では地域のきずなを深めるため、自治会と民生委員と育成委員等と連携している。ふれあい食事サービス事業といきいきサロンや子育てサロン、散歩クラブをしている。3中学校と子育て体験学習も行っている。また夏祭り等にも参加している。今年は見守りも考えていく。

(野崎委員) 土気の地区連協で活動を報告したい。自主防犯組織は45自治会のうち25が結成されている。農村部と都市部の差が出ている。結成を促していきたい。また避難所を掲載した防災マップを作成してきたい。土気は山や崖など危険地域がたくさんある。市の地震・水害・土砂災害の状況をまとめたマップを検討中である。予算として自分たちでも出すが区から475,000円頂いている。

(大槻委員) 誉田地区部会の報告をしたい。誉田地区は本日この会議終了後に自治会・民生委員と社協で重点項目を話し合う予定でいる。まず障がい者にも配慮した避難所地図を作成中である。自治会未加入世帯に対しても区分せず、全家庭で配布予定である。自治会未加入者に対しての避難所運営を考えている。行政が考えている避難者数と現場では数字が違う。公民館を高齢者や障がい者の受け入れ先としている。障がい者施設等と協定を結び進めている。高齢者の買い物支援だが、千葉市の条例が変更したことで要配慮者の名簿が手に入ればアンケートを実施する予定でいる。誉田地区かるた作りを行い子ども達に配布した。また大きなかるたも作成し子ども会を含めた昔遊びを進めている。

(鴨委員) 精神障がい者の家族支援をしている。緑区の自宅引きこもりの精神障がい者などに広報誌を年2回発行している。本日も配布しているが実際のはカラー刷りである。また引きこもりの家族等を例会に誘って支援していくことをしている。土気地区で災害時の支援事業をしていると野崎委員から発表があったが、マップ作りに興味がある。私は地震災害を専門にしている。液状化や津波に関してはデータを持っている。機会があれば協力できる。

(廣田委員) 身体障害者連合会を中心に行事をしている。障がいをもっている人の日常を知ってもらうことを目標にしている。色々なPRをしている。10月に中央公園の横のツインビル5階市民サロンで障がい者作品展を実施する。毎年好評で多くの方が来ている。12月1週目土曜日にハーモニープラザで障がい者福祉大会を開催する。活動内容をパネル展示や舞台発表がある。今年は落語家の話もある。障がい者同士の横の連携として行事を実施している。昨年度はカラオケ交流会を各区で行った。

(石本委員) コミュニケーションを重点にしている。地域の交流、実習生の受け入れである。施設イベントに利用者家族を招いて交流をしている。またボラ

ンティアの交流もしている。7月26日に納涼会で350名の参加があった。また実習生として小中学生が施設に入ってくると高齢者は喜ばれる。今年度は淑徳大学のブラスバンドも予定している。地域の若者への貢献として実習生も受けている。介護人材が不足していくことも懸念されているが、介護実習の受け入れもしている。大学生には教員免許の取得するために実習先としても受け入れている。厚労省で社会福祉法人のあり方検討委員会があり、地域貢献が義務付けになることも考えられる。今年度は施設が地域に出て活動したいと思っている。11月には越智中学校と協議し中学校3年生に福祉教育を予定している。地域の障がい者施設と連携して職員の交流も考えている。

(岡本委員) 身近な生活支援を重点にしている。昨年度は社協・自治会と協力して2か所の見守りに関わった。おゆみ野地区でも高齢化率が非常に高い地域がある。あんしんケアセンターだけでは立ち上げができないので地域の方と一緒に考えていきたい。おゆみ野は子どもが多くいる。高齢者・児童を合わせて見守りできる仕組みを考えていきたい。

(烏山委員) 地域のコミュニケーションの構築としてまずサロンを訪問している。今年度は老人会の交流として徳田委員と連携したい。またオレンジカフェとして認知症の方と家族の憩いの場を提供している。これから認知症の方が増えるので地域で考える場を作りたかった。第1第3木曜日に午後2時間している。オレンジカフェは地域割りを持たずに緑区全体を対象にしている。参加者はまだ少ないが男性の介護者が多い。同じ境遇の方と話したいという希望が多い。ただし送迎はない。気軽に誘い合って来てほしい。

(布施委員) 今年度は地域の活動団体との連携を重点にしている。いきいきサロンを訪問している。参加者やボランティアと顔の見える関係づくりを進めている。地域特性が見えたりとてもいい機会になっている。またあんしんケアセンターの周知が進んでいない。高齢者が集まる場に出て行って介護予防の話をしていきたい。

(田宮委員) おゆみ野地区はアートタウンおゆみ野が立ち上がった。文化祭として昨年度まではコミコン祭りとして行っていた。今年は11月23日24日に開催する。

(廣田委員) 障がい者が小学校中学校に訪問しお話しする活動も行っている。身体障害者連合会の事務局で受け付けている。希望があれば電話番号209-3281に電話してほしい。

(松戸副委員長) 質問を受けたい

(中村和委員) 誉田の買い物支援は実施しているのか。移送サービスの買い物支援を有償で行っている。行っているうえでのアドバイスを何点かしたい。買い物代行としては大きいものを頼まれる人が多い。また値段が決まっている重いものを希望される人もいる。生鮮食品は一緒に行きたいとの希望がある。

(大槻委員) まだやっていない。アンケートを検討している。参考にしたい。

- (岡本委員長) 古市場でも重いものを希望する人がいた。
- (松戸副委員長) おゆみ野中央4丁目では高齢化率が23%と高い。半年前に自治会役員会で話を出した。アンケートを取ったが、ゴミだし支援、声掛けの希望はなかった。
- (鈴木委員) 椎名にはせんだうという店がある。3千円以上買うとせんだうが配達してくれるサービスがある。

## その他

事務局より広報誌みどりのきずなについて説明あった。

- (事務局) 2点お願いがある。資料7のペーパーについて9月末時点でどこまで重点項目が進んでいるか返信してほしい。資料6を見てほしい。広報誌について鴨委員から意見が出ているのはかりたい。広報誌は地域福祉計画の周知を図り各地区の活動を発信する役割として年3回3000部発行している。広報部会としてはみどりのきずな編集全般にしている。
- (鴨委員) 本日は千南会の広報誌を配布している。目的としてもみどりのきずなどは違う。編集委員会を開いて協議し家族会の支援としてPRしていくことにしている。みどりのきずなを家族会でも配布しているので意見が出ている。家族会の方からほとんど読まないとの意見であった。字が小さく、内容が固い、安易に読めるものしたらどうかとの意見だった。千南会では写真を使い、安易な言葉を使うことにしている。5号までカラー刷りで作った。たけの子工房で1部50円で印刷をしてもらっている。まだ広報としては改良の余地があり十分ではないが作成している。私が今回の提案をした背景は以上である。
- (岡本委員長) 鴨委員の意見を取り入れて編集委員で配慮して進めていきたいがどうか。
- (鴨委員) 前向きに努力していく紙面づくりをしてほしい。
- (廣田委員) 字の大きさは何ポイントで作成しているのか。新聞と一緒に。
- (事務局) 12ポイントである。
- (中村和委員) 明朝体という字体が固いのもかもしれない。縦書き12ポイントで作成している。このままでいいか。字体もどうか。
- (鈴木委員) 縦書きが読みやすい
- (事務局) 会議終了後編集委員会を開催する。土気地区はどのようにするか。峰村委員引き受けてくれるか
- (峰村委員) 引き受ける。
- (大槻委員) ファイリングの関係で綴じる方向は左でお願いしたい。

委員長が閉会を宣し、第2回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。